

静岡県立高等学校の在り方に係るグランドデザイン（賀茂地区）

（高校教育課 学校づくり推進班）

1 要旨

賀茂地区の県立高等学校の在り方について、地域協議会での協議を踏まえ、グランドデザインを策定した。

○地域協議会

時期	内容
令和4年 7月 6日	第1回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
11月 24日	第2回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和5年 3月 29日	第3回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
8月 2日	第4回県立高等学校の在り方に係る地域協議会
令和6年 3月 27日	第5回県立高等学校の在り方に係る地域協議会 （グランドデザインの検討）

2 グランドデザインの概要

（1）方向性

賀茂地域ならではの特色や小規模校のメリットを活かし、地域に密着したきめ細かい教育を行い、地域全体をフィールドとした学びを展開することにより、地域の将来を担う人材や世界で活躍する人材を育成。

（2）具体的な将来像

- ・ 学びの拠点を存置し、かつ学習集団の規模を確保するため、4校が連携したキャンパス制への移行
- ・ 下田高校－本校、稲取高校－稲取キャンパス、松崎高校－松崎キャンパス、南伊豆分校－南伊豆キャンパス
- ・ 遠隔配信センターの設置（オンライン授業）
- ・ 各キャンパスにおける市町（小・中学校）との連携（施設の複合化、探究的学びの推進）

（3）今後の対応

各学校におけるグランドデザインの具現化については、令和6年度に各市町・学校と詳細な協議を行った上で決定し、令和7年度公表を目指す。

賀茂地域〈県立高校〉のグランドデザイン

【課題認識・全県】

- 少子化が進行する中での高校の改革（配置と規模のあり方など）
- VUCA、Society5.0など変化の激しい時代を生き抜く力

【課題認識・賀茂地域】

- 生徒数（R5：383人→R13：233人）
- 今のままでは生徒の選択肢が狭まる（学科、コースの縮小など）

【高校改革の基本認識・全県】

- 行ける学校から行きたい学校へ、画一から多様へ（学びの変革）
- 地域・実社会と共にある学校（開かれた学校づくり）
- 時代の変化を踏まえた教育基盤（学校の配置・規模等）

【高校改革の基本認識・賀茂地域】

- 地域と学校の親密さを活かした学びの充実と特色化
- 小規模ならではの深い学びときめ細やかな学び
- 教育空白地域の回避、集団規模や多様性の確保

「地域全体でリデザイン」

【目指す高校のあり方】

賀茂地域ならではの特色や小規模校のメリットを活かし、地域に密着したきめ細かい教育を行い、地域全体をフィールドとした学びを展開することにより、地域の将来を担う人材や世界で活躍する人材を育成

【生徒の学びのイメージ】

- 多様なコース設定やICT活用により、思い描く未来へつながる学びが選択可能
- 居住地に近い身近なキャンパスでの学びが選択可能
- 自分にとって居心地の良い学びの場が選択可能
- 地域内外の企業や人、異年齢の交流から多彩な刺激、示唆を受けることが可能

【具現化のための方策】

【学びの変革のあり方】

- 地域と近い小規模校の特色を活かした学び
 - 地域への理解や愛着を育む教育
 - 実践的な探究学習、将来を見据えたキャリア教育
- 地域ニーズに即した学科・コース等の編制
 - 普通科をベースとした多様なカリキュラム設定（例：観光、食、農業、福祉医療…）
 - ICTを活用し専門科目の履修（例：英語、情報…）
- インクルーシブ教育の推進
 - 特別な支援を要する生徒の受入（特支分校と連携）
 - 異年齢の交流の充実・拡大

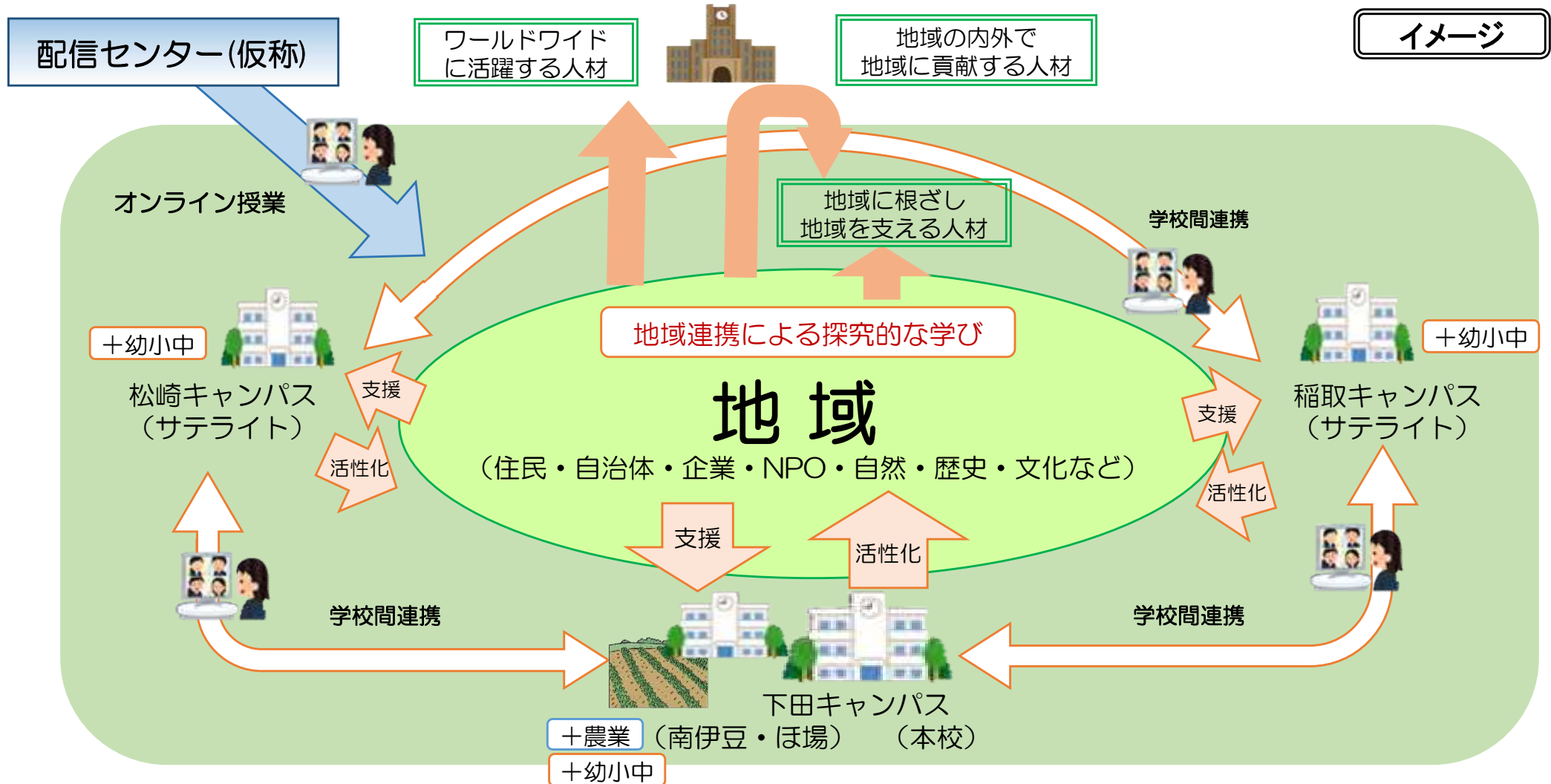
【地域との連携のあり方】

- 地域、企業、大学等と高校との連携体制の強化
 - 賀茂地域学校魅力化協議会等による連携推進
 - 賀茂キャンパスとの連携強化、しずおか寺子屋
- 各自治体のまちづくりを見据えた教育の充実
 - 自治体と連携したまちづくりに寄与する学びの充実
- 生徒の未来へつながる学びへの支援
 - 進学・就職など将来に向けた学びを地域で支援

【教育基盤のあり方】

- 学校配置の適正化・横と縦の連携
 - サテライト制への移行と学校間連携
 - 配信センターを利用したオンライン授業
 - 幼小中高連携の強化（連携型中高一貫教育など）
 - 施設の有効活用
 - 他校種（小・中等）、他目的の施設との複合化
- *別にイメージ図を添付

賀茂地域〈県立高校〉のグランドデザイン



※将来、2年連続して入学者が15人を下回った場合は、教育の質の保障等の観点から原則として募集を停止

センター配信型遠隔教育推進

県総合教育センター(掛川)



本校-分校間遠隔教育

【実施校】伊豆総合-土肥分校
浜松湖北-佐久間分校

【実施科目】数学A、化学基礎演習
○習熟度別に2クラス同時展開が可能
になり、細やかな指導が実現
○科目の専門教員による手厚い指導が
実現し、多様な進路実現が可能になる

【課題】

●配信側教員の負担

【生徒のメリット】進路希望の後押し

- ・専門性を持つ教員による指導が受けられる
- ・進路実現に必要な科目を選択することができる

【教員のメリット】負担の軽減

- ・専門ではない科目を教える負担が減る
- ・配信側教員の負担が減る
- ・多様な学習ニーズに応えることができる
- ・特色のある教育課程を組むことができる

【地域のメリット】地域の活性化

- ・地元で活躍する人材の育成
- ・高校と地域が一体となった町おこしの実現
- ・子育て世帯の流入を後押し

高校教育アンケートの結果 (R4 賀茂・沼津・小笠地区で実施)

- ・通学圏が学校選びに与える影響
賀茂地区70% 沼津地区50% 小笠地区50%
- 全体でも「自宅から近く通いやすい」が学校選択理由の1位
- ・普通科の中でも特色のある教科を学びたい傾向が高い